

「舟を編む」辞書を編集する。

辞書の魅力にとりつかれた人たちが、

悩み、戸惑い、喜びを分かち合い、

時に恋をし、

静かで確かな情熱を、

日々にそそぐ。

舟を編む

誰かに気持ちを伝えるために

「言葉」がある。

本年度本屋大賞第一位に輝く、

大ベストセラー、感動の映画化！

言葉を楽しむ、人生を楽しむ、

愛がつまった人間賛歌！



松田龍平

宮崎あおい

オダギリジョー 黒木華 渡辺美佐子 池脇千鶴 鶴見辰吾

伊佐山ひろ子 八千草薫 小林薫 加藤剛

原作：「舟を編む」三浦しをん（光文社刊）

脚本：渡辺謙作

監督：石井裕也

www.fune-amu.com



製作：「舟を編む」製作委員会 製作プロダクション：リトルモア フィルムメイカーズ 特別協力：株式会社三省堂 三省堂印刷株式会社 配給：松竹 アスミック・エース © 2013「舟を編む」製作委員会

2013年4月13日(土) 全国ロードショー

2012年本屋大賞第二位!

ベストセラー映画化!

あらすじ

【粗筋】出版社・玄武書房に勤める馬締光也は、営業部で変わり者として持て余されていたが、人とは違う視点で言葉を深く捉える能力を買われ、辞書編集部に迎えられる。新しい辞書「大渡海」を編む仲間として。

定年間近のベテラン編集者・日本語研究に人生を捧げる老学者、次第に辞書作りに愛着を持ち始めるチャラ男。個性派ぞろいの面々の中で、馬締は辞書の世界に没頭しながら、馬締は彼女に気持ちを伝えるにふさわしい言葉をみつけられない。

問題が山積み辞書編集部。果たして「大渡海」は完成するのか?

そして、馬締の思いは伝わるのだろうか?

かんくく【監督】二〇一〇年「川」の底からこ

んには「第53回ブルーリボン賞監督賞を史上最年少で受賞、第32回ココマ映画祭新人監督賞ほか数々の賞に輝き、国内外から注目を集める若き俊英・石井裕也。人間のおかしみや情熱を、誠実にストレートに描く作品を世に送り出し、今、最も新作が待たれる監督。

キャスト【声】映画を優しく彩る豪華俳優陣。馬締役の松田龍平、香具矢役の宮崎あおいはじめ、馬締の心の支えとなる調子役の先輩編集者オダギリジョー。馬締に辞書作りの素晴らしさを教える編集部のベテラン動して、小林薫、伊佐山ひろ子、そして加藤剛。女性誌から異動してくる若い編集者に黒木華。さらには、渡辺美佐子、池脇千鶴、鶴見辰吾、八千草薫ら、錚々たる演技派が結集し、言葉と人の豊かさを浮かび上がらせる。

クランクイン【日程】7月28日、文京区音羽にある光文社社屋内にて撮影は始まった。記録的な猛暑に見舞われた長い夏。撮影隊は以後、千代田区・文京区を中心に、埼玉県坂戸、千葉県豊岡海岸、神奈川県鎌倉など、関東近郊の様々な場所を訪ね歩いた。②撮影の本拠地に定められたのは調布、日活撮影所。三つの大きなセットが建

てられた。それぞれのセットが物語内の時間の経過(13年)の前と後、二つの美術設定をほどこされた。③約一ヶ月

半の撮影現場にたくさん、俳優が呼びこまれ、そして離れていく。9月9日、最後に呼びこまれたあけぼの製紙

社員役の俳優たちに拍手が送られた2日後、馬締光也役の松田龍平は、なぜか水中で撮影の全工程終了を迎えることになる。9月11日、クランクアップ(Crank Up)。

ばんきく【原作】辞書編集部を舞台に、辞書作りに情熱を注ぐ魅力的なキャラクターたちの姿を通して、言葉への敬意、不完全な人間たちへの愛おしさを謳いあげ、三浦しをんのベストセラー小説「二〇一二年春、見事、全国の書店員による「いちばん! 売りたい本」本屋大賞第一位に輝いた。

こい【恋】ある人を好きになってしまい、寝ても覚めてもその人が頭から離れず、他のことが手につかなくなり、身悶えしなくなるような心の状態。成就すれば、天にものぼる気持ちになる。

舟を編む

「二〇一二年春、見事、全国の書店員による「いちばん! 売りたい本」本屋大賞第一位に輝いた。

こい【恋】ある人を好きになってしまい、寝ても覚めてもその人が頭から離れず、他のことが手につかなくなり、身悶えしなくなるような心の状態。成就すれば、天にものぼる気持ちになる。

こうかい【公開】(名)スル 一般の人が自由に入場、観覧・使用などが出来るようにすること。『舟を編む』の一日は、4月13日だ!

じしよ【辞書】果てしなく広い言葉という大海原を航海するための舟。誰かと繋がりたくて、人は辞書という舟で海を渡り、自分の気持ちを的確に表す言葉を探る。

辞書作りには膨大な時間と労力がかかるが、辞書は出版社の誇りであり、信頼され愛される辞書を作れば、会社の屋台骨は20年は揺るがないと言われる。

スタッフ【声】石井裕也監督のもと、最高のチームワークで映画を編みあげる、精鋭のスペシャリストたち。脚本は「フレフレ少女」ほか、監督、俳優など多彩な活躍を

みせる渡辺謙作。撮影は「八日目の蟬」の藤澤順一。照明は「ヴィヨンの妻」松本とタンポポの長田達也。美術は「東京タワー」オカとボクと、時々、オトン」の原田満生。録音は「テルマエ・ロマエ」の加藤大和。編集は「まほろ駅前多便利軒」の普嶋信一。衣装は「わが母の記」の宮本まさ江。ヘアメイクは「悪人」の豊川京子。

だいたい【大渡海】玄武書房の新しい中型辞典。見出し語は約二十四万語。編集方針は、今を生きている辞書。言葉は生まれ、中絶して死んでいくものもあり、生きている間に変わっていくものもある。今を生きている人々に捧げる辞書。

つたえる【伝える】(動ア下) ① 伝える ② 伝える ③ 伝える ④ 伝える ⑤ 伝える ⑥ 伝える ⑦ 伝える ⑧ 伝える ⑨ 伝える ⑩ 伝える ⑪ 伝える ⑫ 伝える ⑬ 伝える ⑭ 伝える ⑮ 伝える ⑯ 伝える ⑰ 伝える ⑱ 伝える ⑲ 伝える ⑳ 伝える ㉑ 伝える ㉒ 伝える ㉓ 伝える ㉔ 伝える ㉕ 伝える ㉖ 伝える ㉗ 伝える ㉘ 伝える ㉙ 伝える ㉚ 伝える ㉛ 伝える ㉜ 伝える ㉝ 伝える ㉞ 伝える ㉟ 伝える ㊱ 伝える ㊲ 伝える ㊳ 伝える ㊴ 伝える ㊵ 伝える ㊶ 伝える ㊷ 伝える ㊸ 伝える ㊹ 伝える ㊺ 伝える ㊻ 伝える ㊼ 伝える ㊽ 伝える ㊾ 伝える ㊿ 伝える

はやし【かぐや】(林香具矢) ● 馬締が暮らす下宿「早雲荘」の大家タケおはあさんの孫、タケが高齢のため、同居を開始。上京前は、京都で板前修業をしていた。馬締の一目惚れの相手。演じるのは「ツレがうつになりまして」の母の記)ほか、高い人気と実力を誇る演技派女優・宮崎あおい。

まじめ【みつや】(馬締光也) ● 玄武書房社員。営業部ではバツとしない存在だったが、辞書編集部の希望の星としてスカウトされる。新辞書「大渡海」の舵取り役となり、辞書編集に人生を捧げることになる。辞書作り以外の能力は、残念ながら低い。

松田龍平 宮崎あおい

オダギリジョー 黒木華 渡辺美佐子 池脇千鶴 鶴見辰吾
伊佐山ひろ子 八千草薫 小林薫 加藤剛

原作 「舟を編む」三浦しをん(光文社刊) 脚本 渡辺謙作
監督 石井裕也

2013年4月13日(土)より全国ロードショー www.fune-amu.com

製作:「舟を編む」製作委員会 製作プロダクション:リトルモア フィルムメイカーズ 特別協力:株式会社三省堂 三省堂印刷株式会社 配給:松竹 アスミック・エース © 2013「舟を編む」製作委員会

辞書という【舟】を編集する【編む】人たちの言葉と人への愛